

情's people



TAKE FREE

情's people vol.30 (2009.7.13 発行)

情's 掲示板

— 情報館からのお知らせ —

○夏休み期間のサービス

長期貸出サービスは 7/16 (木) から開始します。

※返却期限は 9/24 (木) です。

開館時間は 7/30 (木) ~ 9/12 (土) まで

10:00 - 17:00 となります。

3F 「tatami」コーナーにて、蔵書特集

展示「星空図書館」イベントを開催。

星や宇宙にまつわる資料をご紹介します☆

期間:7月28日(火)~9月11日(金)

展示資料の貸出も OK!!

情's 四コマ劇場

今回のお題 「旅」

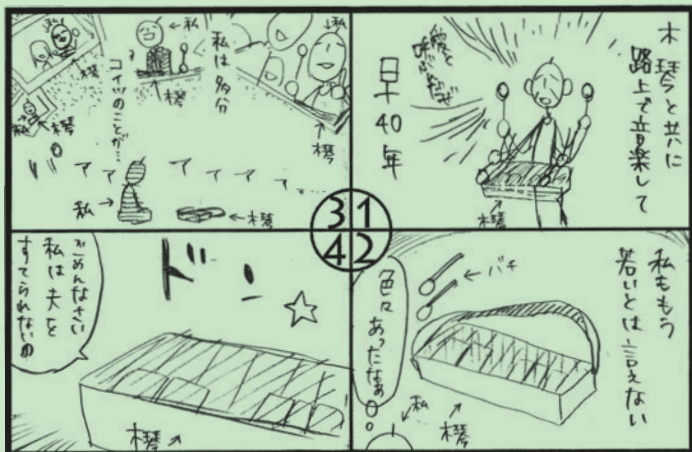
情報館でお題を出し、利用者の皆さんから四コマを募集。編集長の独断と偏見で選んだ優秀作品を紹介しちゃおうというコーナーです。今回のお題は「旅」。応募してくれた皆さん！ありがとう！

あなたの 四コマ 待ってます!!

次号テーマ:「夢」

締め切り:9月30日(水)

情's 四コマ劇場では掲載する四コマを大募集しています!テーマに沿った四コマを描いて専用ポストに投稿してください。応募作品はすべて情報館の大型モニターで発表される他、優秀作品は10月初旬発行予定の情's people vol.31 に掲載されます。みんなが自分の作品を見る快感を是非味わってください!



タイトル:老人と旅 作:Mくす



タイトル:又、たび 作:木訓

編集後記



情's people は今号で 30 号目となりました!最近のものはイラストも増え、親しみを持ちやすいのが売りですが、昔のものはコラムなどが充実していて、読み物として楽しめるのが特徴ではないかと思えます。バックナンバーはセイカコーナーで見ることができるので、是非、手に取ってみてください!

ご意見・ご感想はこちらまで

fukuyama@kyoto-seika.ac.jp

発行元:京都精華大学情報館 情's people 編集部
発行責任者:井上千佐 編集責任者:福山 颯
編集又タツフ:近藤千佳・大西啓子・喜多孝子

そうですね。

旅の方法としては.....

やはり小説を読んだり、映画を観たりして妄想の世界へ繰り出すのが一番早いですがね....

でも、

今年の夏は..今年の夏こそは...

どこか遠くへ行きたいのです。

旅行ガイドコーナーで資料を
ペラリめくって決める

小説片手に舞台となった場所へ行く

写真集どみた風景を自分でも撮りに行ってみる

たくさん知らない人と出逢うために長旅を決行しちゃう.....

旅の仕方は無限に広がります。

出発します
心の旅

<目次>

【巻頭特集】情報館で世界一周.....	p.2-3
情's SCRAP.....	p.4
情's コラム.....	p.5
【30号突破記念特集】メモリアル情's people.....	p.6-8
情報館数珠つなぎ.....	p.9
情's selection.....	p.10-11
グダる人へ~GO!GO!めがねちゃん~.....	p.12-13
情's 四コマ劇場/情's 掲示板/編集後記.....	p.14

情報館で 世界一周



どーこーかとーおーくーへ いーきたあい だけどお金なんてない
そんな貴方におすすめしたい。情報館で世界一周読書リレーしよう!



① アメリカ

スノーピーたちのアメリカ
広瀬升彦著 新潮社
3F 文庫新書コーナー
726.1 || H 71 || 新 / 文



③ ペルー

インカ帝国：太陽と黄金の民族
カルメン・ベルナン著 創元社
3F 閲覧室 268 || B 38



② カナダ

赤毛のアンの手作り絵本
鎌倉書房
3F 閲覧室 594 || Ka 31

①

③

④

④ ブラジル

三月の水
ジョアン・ジルベルト
ポリグラム
1F 視聴室 W1 || G 44 || CD

⑪ アイルランド

ジス・イズ・アイルランド
サセック著 松浦弥太郎訳
ブルース・インターアクションズ
3F 絵本 726.5 || Sa 81

⑩ イギリス (ロンドン)

憧れのまほうつかい
さくらももこ著 新潮社
3F 閲覧室 293.3 || Sa 46



⑨ フランス

ベルサイユのばらその謎と真実
JTBパブリッシング
3F 閲覧室 726.1 || B 38

⑧ スイス

ハイジに会いたい!
:物語の背景とスイスアルプスへの旅
純丘曜彰文章;純丘路子写真 三修社
3F 閲覧室 293.45 || Su 64



⑤ 南極

旅する南極大陸
:「体感的」究極ガイドブック
神沼克伊著 三五館
3F 閲覧室 旅行ガイド

⑫ デンマーク・⑬ ポーランド

ホンマタカシデンマーク、ポーランド
(In-between : Europe today 2004-2005:1)
ホンマタカシ写真・エッセイ
EU・ジャパンフェスト日本委員会
3F 写真集 748 || I 54 || 1

⑭ ドイツ

完訳グリム童話集 1-7
グリム兄弟著 筑摩書房
3F 文庫新書コーナー 943 || G 86 || ち / 文



⑮ バルト3国

旅のコラージュ
:バルト3国の雑貨と暮らし
les deux 著 ビエ・ブックス
3F 閲覧室 293.88 || L 56

⑯ フィンランド

マイヤ・イソラ:
マリメッコのテキスタイル・デザイン
3F 図録 ビエ・ブックス
3F 閲覧室 706.93 || I 85

⑰ ロシア

Icon (アイコン)
:Vaslav Nijinsky
芳賀直子編・著・監修 講談社
3F 閲覧室 769 || N 73



⑳ 日本

サザエさん
長谷川町子著 朝日新聞社
3F 閲覧室 726.1 || H 36 || 1



㉓ 台湾・㉔ 韓国

アジア裏メシ街道
:韓国・台湾父と娘のおすすめ料理
黒田勝弘,黒田節著 阪急コミュニケーションズ
3F 閲覧室 596.22 || Ku 72



⑱ インド

河童が覗いたインド
妹尾河童著 講談社
3F 文庫新書コーナー
914.6 || Se 72 || 講 / 文

⑲ ブータン

ブータン：竜の子ティンレイ
小松義夫写真・文 偕成社
3F 閲覧室 367 || Se 22

㉐ 中華人民共和国

まだ見ぬ中国
稲越功一著 日本放送出版協会
3F 閲覧室 292.209 || I 52



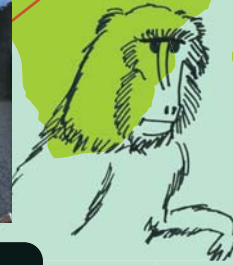
⑦ サウジアラビア

子どもたちと話すイスラームってなに?
タハール・ベン・ジェルーン著 現代企画室
3F 閲覧室 167 || B 35



⑥ タンザニア

Gombe (ゴンベ)
星野道夫著 メディアファクトリー
3F 写真集 748 || H 92



㉑ インドネシアバリ島

花を運ぶ妹
池澤夏樹著 文藝春秋
3F 閲覧室 913.6 || I 35



㉒ オーストラリア

アボリジニー神話
パーカー著 青土社
3F 閲覧室 164.71 || P 24

情's

SCRAP

あてもなくぶらぶらと、
目についた本を開けば、
そこに思いがけない
素敵な出会いがある・・・かも。

本日のSCRAP

私は表紙を見せた。見わたすかぎりサハラ砂漠がひろがっている写真だった。

「この中に何が見えますか」

「川が見えます」と彼は答えた。「川のほとりには、テラスのあるゲストハウス。テラスの上で人々が食事をしています。いろんな色の日傘があちこちに見えます」このとき彼の視線は、表紙の上になかった。空中を向いていて(略)勝手に想像しているかのようだった。(略)テストは終了したと思ったのだろう、帽子をさがしはじめていた。彼は手をのぼし、彼の妻の頭をつかまえ、持ち上げてかぶろうとした。

妻を帽子とまちがえた男

著者はオリバー・サックス。映画「レナードの朝」の原作で有名な神経学者である。この手の精神病・神経症(私にこの両者の区別は説明できない。違うらしいのだが)の患者を描いた小説、ノンフィクション、映画に興味を持ってしまう。自分を遊ばせ、その最初は北杜夫になるのだと思う。楡家の人びとの登場人物と自分の違いは何なのか不安に思ったりもした。北杜夫の著作も面白い。お勧めする。

あるときトンプソン氏は旅行に出かけた。ホテルのフロントではウィリアム・トンプソン牧師と名のり、タクシーを呼んで出かけた。あとで聞いたことだが、タクシーの運転手は、彼ほどおもしろいお客を乗せたことはなかったという。トンプソン氏が次から次へ、すばらしい冒険に満ちた、おどろくべき身の上話をしてくれたからだ。「あらゆる所を旅行し、あらゆる経験をして、会ってない人なんかみたいでした。一生のうちに、あんなにたくさん経験ができるなんて、信じられない」と運転手は言った。「とても一人じゃできるわけじゃないですよ」われわれは答えた。「ひじょうに奇妙なのですが、要するにアイデンティティの問題なのです」

アイデンティティの問題

彼の記憶は音楽そのものだけでなく、演奏にまでおよんでいた。彼は、生き字引きとして多少は名を知られていた。(略)要するに彼は熱狂的なオペラ通であり、また「知恵遅れの天才」と言ってもよかった。

生き字引き

私はだいたい素数表をたずさえて、病棟に入っていった。二人は、やはり部屋の隅にすわって数の対話をやっていた。私はなにも言わず、今度は二人のいるところにすわった。最初彼らははっとしたが、私がべつに邪魔するわけでもなかった。六桁素数のゲームをつづけた。しばらくたってから私は仲間に加わることにきめ、ある数すなわち八桁の素数を口にした。二人はふりかえって私のほうを見た。そのあと突然、二人はおしだまり、身動きもしなくなった。その顔には、緊張とおどろきがあらわれていた。沈黙のうちに長い時間がたった。こんなに長いあいだ彼らが無言をつづけたことはなかった。三十秒かそれ以上つづいただろう。それから突然、二人は同時ににこりと笑った。

彼らは、こちらには想像もできないなにかあるやり方によって、私が口にした数が素数であることに突然気づいたのだった。これは二人にとって、明らかに大きな喜び、二重の喜びだった。一つには、私が楽しい遊びの種をあらたにひとつ提供したからだった。それまで彼らは、八桁の素数にはまったく出会ったことがなかったのである。第二には、彼らがやっていることを私が理解したことが明らかとなったからだった。

双子の兄弟

参考：六桁の素数「206209」「493121」など。八桁の素数「52986961」「99990001」など

《情報館所蔵資料》

「妻を帽子とまちがえた男(サックス・コレクション)」オリバー・サックス著(晶文社・1992)

3F 閲覧室 一般図書 493.7 Ⅱ Sa 12

※太字部分はすべて引用です。

(Written by C)

情's づらみ

「旅 ア・ラ・カルト」

情報館課 大坪 一幸

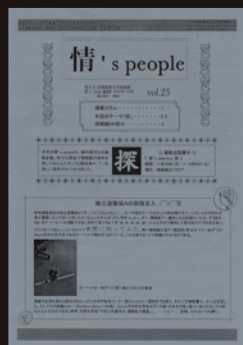
生まれた時から「旅」は身近にあった。我が家の近くに汽車(電車、ではない)の通る線路があり、坂下から聴こえてくる汽笛が日常の音であった。三つ子の魂百まで、というがわたしの旅好きがそこに起因していることは間違いない。わたしの生まれた町は汽車の似合う所だったが、「旅」の似合う町は何といっても尾道だ。『放浪記』の著者、林芙美子が幼少の頃両親とともに九州から尾道へ辿り着いた大正時代を彷彿とさせるような、懐かしい風情を残す瀬戸内海沿いの町。この町で生まれた大林彦監督がロケ地としてここをよく使うのも頷ける。ここで撮影された作品に『転校生』、『時をかける少女』、『さびしんぼう』など、他にも何作かある。旅行におすすめしたい町である。

旅に対する憧れは、月刊誌『旅』(JTB(日本交通公社)発行。同社のものは2003年にて休刊)で大きく膨らんだ。多くは国内各地の観光ポイントを紹介するものだが、高校時代、自分でお金を稼げるようになったら行ってみたいと思いつきながら、40年近く経った現在に至ってもその願いを果たせずにいるところが多い。長野県南西部にある南木曾もそのひとつ。「なぎそ」と読む。当時の旅行記ではその南木曾からバスでさらに山間に入った「漆畑」という木地師の人々の住む小さな集落のことが紹介されている。昨年、名古屋から中央本線を長野に向う途中で南木曾を通ったが、当時の記事と変わらぬ車窓からの眺めだったのがとても嬉しかった。

「旅」を定義すれば、どういうことになるのだろう。日常と違う空間にわが身を置くこと、とでもいう事になるのか。その運送手段が今では鉄道であったり、船であったり、飛行機ということになる。芭蕉の生きた江戸時代は自分の足だけが頼りの旅だったので、『奥の細道』はわが身を張った命がけの旅行記でもある。いまの時代に歩いて旅をする、などという発想はなかなか湧いてこないが、その超短縮版のような散歩などをすると、けっこうものを考えたりする。大方は美味しいものを食べたい、などと禄でもないことなのだが、たまには自分の今日までの来し方を振りかえったりもする。旅行と言えば、いまや列車や飛行機を使うことが当たり前となっているが、やはりものをゆっくりと考える心のゆとりを意識して持たない限り、ただ単にスケジュールをこなすだけで余計に体を疲れさせてしまうことになりかねない。永井荷風『あめりか物語』の冒頭にボードレールの詩『旅』が載せられている。その一節に「ただ行かんがために行かんとするものこそ、真個(まこと)の旅人なれ」とある。自分流に解釈すれば、旅行はプランを立てている時、すなわちイメージで旅行をしている時にこそ、本当の旅をしているのだ、となるのだがどうだろうか?

実際にイメージで旅をしていた時が自分にはあった。社会人になって二年目。当時、国鉄(今のJR)で京都から山科間のひと駅だけ電車で通勤していたが、降りずにそのまま乗って行ってしまおう、と何度思ったことか。そんな時、いつも『遠くへいきたい』(作詞・永六輔、作曲・中村八大)のメロディーが浮かんでいた。そう、どこか知らない町へ行ってみよう、というも思っていた。それはついに決行されず終いだったが、毎週日曜日の朝に放映されている同タイトルの旅行番組は今や相当な長寿番組のはずだ。そんなブルーな社会人だった私が心の拠り所としていたのは松本清張の小説。なぜならこの人は、全国各地を徹底的に取材して本を書いたので、小説が一種の旅行記ともなっているからだ。『点と線』、『砂の器』、『ゼロの焦点』、『波の塔』、『風の視線』等々。こんな小説を読んで、気分だけは旅行を楽しんでいた。「旅」を人生そのものにたとえた人がいる。月日や年月を永遠の旅人と捉えた芭蕉はその典型であろう。普段の暮らしとしての日常と、非日常のものとしての「旅」、という違いはあっても、旅への憧れは、日々の生活から芽生えわたしたちを支える。だからこそ、「旅」は書物の世界でも永遠のテーマなのであろう。

メモリアル 情's people



情報館広報誌「情's people」は2003年1月に創刊され、今回で30号目となります。6年以上に渡って発行されてきた情's peopleには、情報館の歴史が刻み込まれています。

30号突破を記念して、過去の記事から印象的な物をピックアップしてみました。変わった所も変わらない所も『へえー、情報館ってそうだったんだなあ』と思いを馳せてみてはいかがでしょうか？

pick up 2007年 vol.23 「情報館で一番気になる記録」



カーペットを一枚ずつ丁寧に数えてゆくAの勇姿 (情's people vol.23より)

vol.23では「情報館で一番気になる記録」というテーマで、こんな記事がありました！

Q. 情報館3Fの長さは？

外から見ても横にずーっと長い・・・3Fを歩けども歩けども続くフロア・・・確かに長い！

みなさんもあの長さに驚いたでしょう？どれくらいかな～とても気になりますね～この疑問を解明するため、「独立遊撃隊A氏」が実際に測って見たのです。「幸い情報館の地下1階を除く床はすべて1枚ずつが50cm四方の正方形であるカーペットで埋め尽くされている」ことを手がかりにA氏は1枚ずつ数えてゆきました。

A.72m50cm (50cm×145枚)

こんなにあるの！叡山電車が1両約16mなので、4両分はありますね・・・調べあげたA氏の熱意と執念に感動しました。

さらに「情's selection 番外編」では「情報館で一番〇〇な本」というキーワードで資料が紹介されていました。「一番長いタイトルの本」「一番高い本」「一番重い本」など、思わずへえ～へえ～とトレビア情報が満載でした。ぜひ一度手にとってみてください。

所蔵資料をコツコツと調べた図書館員の情熱がビビビと伝わってくるかも！

▶ selected by TK

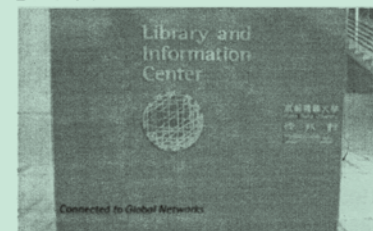
情's COLUMN

Welcome to "Library and Information Center"

利用者の皆さん。ようこそ、情報館へ。
私は芸術学部デザイン学科の教員なので、今回は、情報館のデザインに関する話題を伝えたいと思います。
情報館は、1997年に社会に開かれた「総合情報センター」として出発して今年で6年目を迎えようとしています。本学芸術学部建築分野の上田篤先生(2001年退職)の設計デザインによるこの巨大な建物に、理事会では、当初「図書・情報館」という命名を協議していましたが、従来の古典的な図書館ではなく、21世紀の新時代にふさわしい施設という構想の下にシンプルな「情報館」という思い切ったネーミングに決定しました。素晴らしいネーミングデザインだと思います。今や全国の大学が本学の先進的な「情報館」に追いつるトレンドとなり、大学社会、図書館業界においては、名実ともにまさに快挙と言えるのです。

ところで、皆さんは叡電の駅から歩いてきて、情報館正面の入り口左側にある四角い銘板に気付いているでしょうか？そこには「Library and Information Center」と英文でこの館を表現しています。この英文も89年にドイツで誕生したローティス(Rotis)という世界的に使用される書体の中で最も現代的な書体を採用しています。中央には、世界に精華の情報をネットワークでアクティブに結ぶ地球ネットのマークを浮かべています。左下には、「CONNECTED TO GLOBAL NETWORKS」と世界発信の決意が表されています。この言葉は、中尾ハジメ学長によるものです。今や世界中の情報が手に入ることができるようになったり前となりましたが、京都精華大学は、今のうちに海外の大学とネットワークを通じて展覧

会や、シンポジウムなど実質的な情報交換を行うことになると思います。



一方、館内の種々の案内サインに目を転じてみてください。「見る本のコーナー」「引く本のコーナー」など可動式独立標識のデザインにしています。このプロダクトデザインは、精華独自のオリジナルデザインで、既製品ではありません。館内案内地図もCGで作られていて、変更があれば、いつでも対処でき、点字による案内も当時の視覚障害の学生諸君の協力により、制作されました。

このように様々な工夫のデザインが施されていることをぜひ、知っていただき有意義に利用していただきたいと思っています。

デザインは、内容を伴っていなければなりません。まだまだ十分とはいえませんが、利用者の皆さんに気持ちよく利用していただくために、更なる情報館デザインに努力したいと思います。

(京都精華大学情報館長 松谷昌順)

先日、情報館の印刷物を発注すべく、業者の方とやり取りしていたときのこと。業者さんが情報館のロゴマークを指して「あのマリがですね、マリの部分の印刷が、」といわれたのですが、すかさず「マリちゃん！（怒）」と（心の中で）叫んだ私。

果たしてあれは鞠ではない。であれば、一体なんなのだろう・・・

その疑問は、情's people Vol.6の巻頭にある情's COLUMN「Welcome to "Library and Information Center"」を読んで解決しました。CONNECTED TO GLOBAL NETWORKS!

▶ selected by 1000

過去にも「旅」をテーマとした号がありました。2007年6月号です。

当時情報館にいた人間で、ミャンマーやカナダなどさまざまな国をテーマに旅のエッセイが書かれていた号でした。その中に、私にとっても強い印象を与えたエッセイがあります。

“...殺つきの生牡蠣にワインヴィネガーをスプーン一杯たらしてシャンパンと口の中で混ぜ合わせるようにして食べたのですが、これがとんでもない魔法にかかったような気持ちにさせてくれたのです。生牡蠣の臭みと酢とシャンパンの苦味は絶妙な組み合わせで、もともとはこの三つの食べ物がひとつだったのではないかと、思えるくらいに柔らかく甘い香りのとろとろとした冷たい液体になって、飲み込んだあともしばらく口の中をその香りで満たしてくれました。...” フランス(不可三)

筆者はパリに到着してすぐに、シャンパンと生牡蠣を食べたそうです。そんなことを思いつき実行してしまうことに格好よさを感じ、私は憧れました。

そして何よりも、美味しそう！牡蠣の名産地出身でありながら、私は生牡蠣をそんな方法で食べるなんて思いもよみませんでした。このエッセイで初めて知ったのです。筆者の方の日常のスタイルの良さと相俟って、何年経ってもこのエッセイは忘れられませんでした。いつかパリに行くことがあれば、きっと私もシャンパンと一緒に、牡蠣を食べることでしょ。

▶ selected by C

今回、勝手に「ちょっとびっくり！」ランキングをつけてみました。実は、数年前の館内はこんな感じだったのです。

1位 2003年 vol.5

朝から大盛況！！
情報館の「ドル箱」コーナー

朝 10 時の情報館。試験期間でもないのに、なぜこんなに学生が！…なんて、精進人なら今さらびっくりしませんよね。そう、ここは京都精華大学情報館が誇る「マンガコーナー」(写真は 2F コーナー)。
他大学でささやかれる「学生の図書館ばなれ」もどこ吹く風。まさに情報館の「ドル箱」です。
ちなみにこれらのマンガは、芸術学部マンガ学科の教育・研究資料として集められ、2F と B1F の 2 コーナーあわせて 3 万冊あります。頑張って「ライブラリー完読」を目指してはいかがでしょうか？



2F にあったマンガコーナー。皆さんかなり集中しています。今は B1F コミック雑誌コーナーがこのような雰囲気ですね。

2位 2003年 vol.8

浴衣すがたで来館してもらっても、サマになるのが情報館。
今回は、座布団敷いて、ゆっくりくつろげる和室コーナーです。インターネット用のマッキントッシュ端末もありますよ～。
ぜひぜひみなさん、ご利用ください。



なんと 3F に畳コーナーがありました。インターネットができる端末もあり、快適空間でした～。現在はこの場所をスペース「tatami」と名づけ、様々な展示の場所として使っております。

3位 2004年 vol.13

情報館通用口名物(?)の猫たちに、新しい「おうち」がプレゼントされました。
贈り主は、残念ながら不明ですが、にゃんこは幸せそうに身を丸めてます。猫になり代わり、館員一同よりお礼申し上げます



猫ちゃんたちに「おうち」があったのですね。いまは何処へ・・・。
情報館裏口の猫たちは今でも元気いっぱい。

▶ selected by keiko

いかがだったでしょうか？情's people のバックナンバーは情報館入口のバックナンバーコーナー、または情報館 3F の「セイカコーナー」に情報館の出版物として配架されていますので、興味のある方はぜひ手に取ってみてくださいね。これからも情's people をよろしくお願いします！



情報館数珠つなぎ



黒田 政秀 さん
(メディアセンタースタッフ)

スタッフインタビュー「情報館数珠つなぎ」のお時間がやってきました。情報館で働いている様々なスタッフの話から、どんな人やどんな仕事か私たちの情報館を支えているのかを知っていただけたら嬉しいです。
それではインタビュースタート！（インタビュー：福山 賜）

情報館のどこで働いていますか？

メディアセンターで働いています。

どんな仕事をしているんですか？

主には講演会などの撮影です。撮影したものの編集もしています。

セイカインディーズコーナーに置いてあるようなものですか？

そうですね…
(机からおもむろに定規を取り出す)
僕、こういうの触っててもいいですか？

え!?!…あ…はい、大丈夫ですよ (笑)。

僕、おしぼりとかあるとすぐ触っちゃう派なんですよ。

あ、末っ子ですか？

そうです。え？なんでそれが末っ子になるんですか？

いやー…末っ子の人は落ち着きがないとか、言うじゃないですか。レストランで紙ナプキンをちぎりだしたり、ストローの袋で遊んだり…

あーはいはい。やります僕。それ(笑)。僕末っ子長男なんですよ。

そうなんですねー。あ、すみません、インタビューに戻りますが、仕事のやりがいはどこですか？

大学の大きなイベントに関わる事ができると、すごく拘束はされるんですが、やりがいは感じますねえ。クムルスとか。40周年イベントとか…。ポアダム

スの撮影もしました。他にも表立って撮影をするわけではないですが、機材の準備などで関わったりします。

では質問を変えて、精華大学の学生さんにどんな印象を持っていますか？

明るいですね。人と人の繋がりがありますよね。

どういときにそれを感じますか？

なんていうか…ちょっと抽象的ですけど、「あの人知ってたらあの人知ってる」みたいな。学科を超えて繋がってる事が多くないですか？学生さん同士の繋がりが強いですが、学生さんと職員さんの繋がりもありますよね。

仕事で学生さんと関わったりする事は多いですか？

はい。さっき言った撮影の他にも、メディアセンターにはラボがあるので、そこでサポートをする事があるんです。それに、学生アルバイトもたくさんいますし。

仲がいいですねー、みなさん。さて、情報館のここがすばらしい！というところはどこですか？

視聴ブースを利用するのに何も手続きがいらないことでしょうか。これはすごい事だと思いますよ。びっくりしましたねえ。ここに来た時。僕がいた大学では手続きが大変で、いっぱい何か書かないといけなかったんですよ。

自主性にまかせている、ということですね。

そうですね。資料が利用しやすいですよ。映像資料も豊富だし。

仕事で大変な事はありますか？

いや、しんどいことはないですねー。楽しいです。

楽しかった事は？

大学生の頃って、一般教養の授業はあんまり取ってなかったんですけど、最初ここに来てやった仕事が生物学の授業の撮影だったんですよ。その授業がすごいおもしろくて。毎週、多分どの学生よりも熱心に聞いていたのではないかと…。僕、メモったりしましたからね (笑)。

撮影するのはイベントだけじゃないんですね。そういった授業も資料として配架されるんですか？

場合によりますね。その生物学の授業は youtube で見れるはずですよ。

youtube ですか！ちょっと見てみましょう… (検索する) あ、ほんまや！精華の ID があるんですね。わー、自由に見れるんですねー。すごいなあ！

資料として情報館に配架されていないものでも、youtube に UP されたりすることがあるんです。他にもパンフレット用に音声を録音してテキストを起こしてもらったり、映像などが授業で利用されたりします。

学内の至る所で活躍なんですね！今日はどうもありがとうございました！

情'S SELECTION

情報館スタッフが毎回あるテーマに沿って
情報館資料をセレクトするコーナーです。

日差しが強くなってきました。木陰でちょっと一休み。吹き抜ける風が心地よいですね。今回は、「風」をテーマに選んでみました。

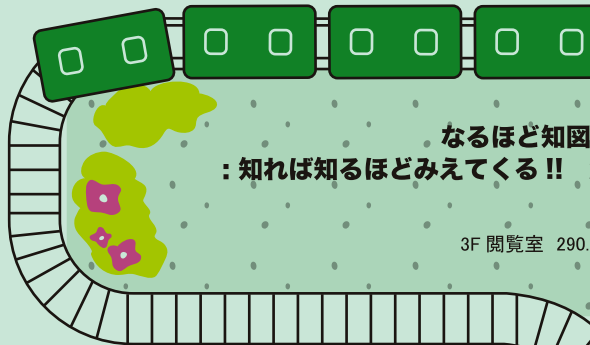
vol.30 のテーマ 『旅』



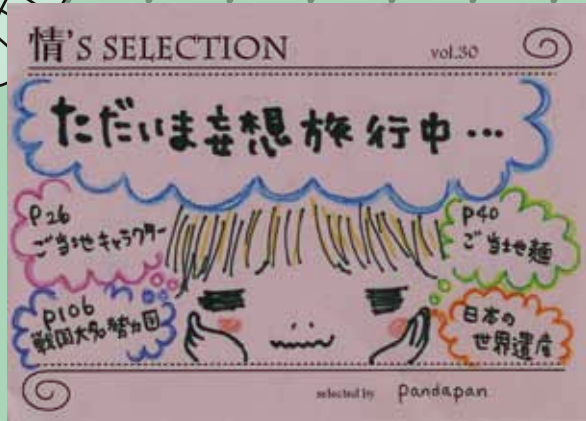
絵画のある景色
ピエ・ブックス
3F 閲覧室 290.9 || Ko 44



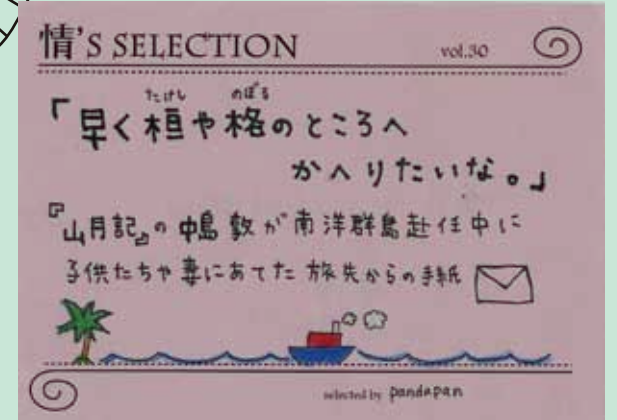
プリンス・エドワード島
写真・近藤三千雄
篠崎書林
3F 閲覧室 295 || Ko 73



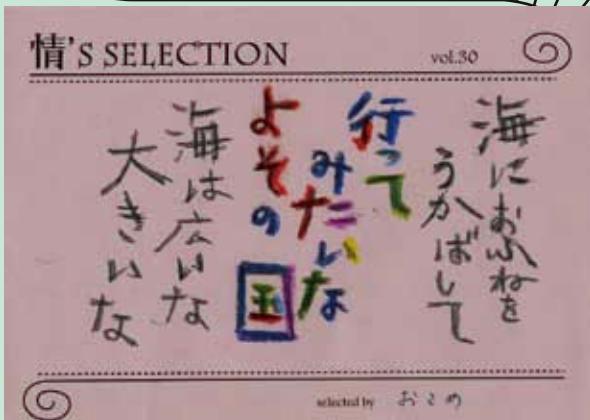
**なるほど知図帳日本
: 知れば知るほどみえてくる!! 2008**
昭文社
3F 閲覧室 290.38 || N 53



中島敦 父から子への南洋だより
中島敦 著 集英社
3F 閲覧室 915.6 || N 34



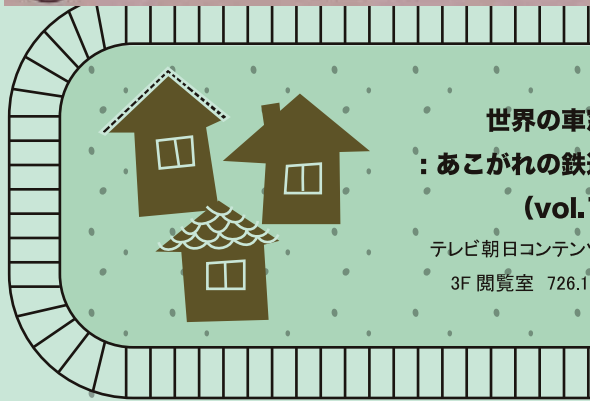
**「早く櫃や格のところへ
かへりたいな。」**
『山月記』の中島敦が南洋群島赴任中に
子供たちや妻にあてた旅先からの手紙



行ってみたいよその国
サントリーミュージアム「天保山」
3F 図録 727 || I 191



切手で旅するヨーロッパ
山田庸子著
ピエ・ブックス
3F 閲覧室 693.8 || Y 19



**世界の車窓から
: あこがれの鉄道旅行
(vol.1~3)**
テレビ朝日コンテンツ事業部
3F 閲覧室 726.1 || Mi 88 || 1



**糸で描く
: ファブリック・ピクチャー**
森麗子著 美術出版社
3F 閲覧室 753.7 || Mo 45



いつかわたしも旅がしてみたいと...
森麗子さんが縫った絵のような
世界がみえるのではと...

ガッる人へ ~GO! GO! めがねちゃん~

このコーナーは何でも「ググって」しまうあなたに、

- 調べる楽しみ
- 情報館利用、資料検索の方法

について知ってもらおう!!という目的で始めました。 GO! GO! めがねちゃん!

レポートのテーマに「音楽」を選んだめがねちゃん、前回までは本や新聞、雑誌等の資料を集めましたが、今回は実際に音楽を聴いてみることにしました。1F 視聴覚室はどうやって使うんだろう?



第四回 「視聴覚資料の利用」

音楽について本はたくさん読んだけど、実際の音楽はあまり聴いていないなあ。そういえば情報館1FにCDやDVDが並んでいたよね…。ちょっと行ってみよう!



すいませーん。1Fにはどんな資料があるんですか?



CDなどの録音資料、DVDやVHSなどの映像資料に加え、語学資料もありますよ。視聴コーナーや視聴ブース等を使う場合、カウンターで申し込みなどの手続きが必要ありません。空いている機器は自由にご利用いただけます。



わー!自由に使っていいんですね!貸出はできますか?



DVDなどの映像資料は館内利用のみですが、CDなどの録音資料は貸出できます。録音資料の貸出は1週間で、延長はできません。また、語学資料は図書ならば2週間、雑誌なら1週間借りられます。



なるほど!借りるときは自動貸出機を使えばいいんですね?



いえ、録音資料や語学資料は貸出も返却も必ず2F図書カウンターで手続きしてください。自動貸出機や返却ポストの利用は資料の損傷や紛失につながるため禁止しています。

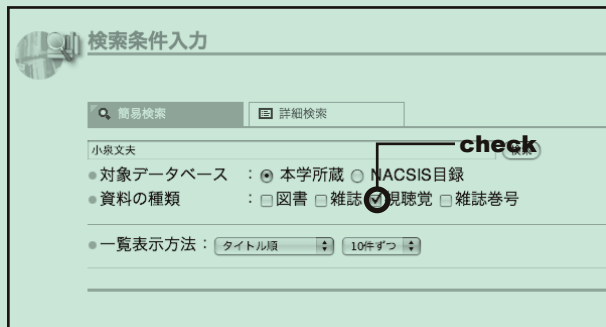
① 資料を探す

たくさん資料があるなあ…。視聴したい資料があるかどうか、OPACで調べてみよう!



あるアーティストのCDを探している、この監督の作品が見たい!など、探したい資料が具体的な場合はOPACを利用するといいでしょ。

「資料の種類」の「視聴覚」を選び、キーワードを入力します。



●まめちしき セイカインディーズコーナーとは

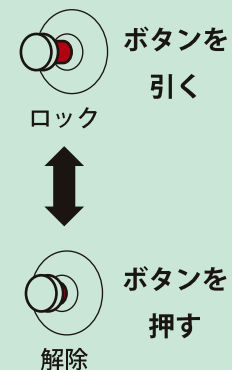
視聴覚室の「セイカインディーズコーナー」には、過去に京都精華大学で行われたイベントや講演会の映像などが並べられています。見逃してしまったものはここでぜひチェックしてくださいね。

手動書架を動かそう

語学資料コーナーの前にある手動書架にも、映像資料などが配架されていて、利用することができるよ!

閲覧したい書架が閉まっているときは

- ① 閉めようとしている書架に人がいないか確認
- ② ハンドルのロックを解除
- ③ ハンドルを回して書架を移動させる
- ④ 開いた両側の書架のロックボタンを引いて固定する



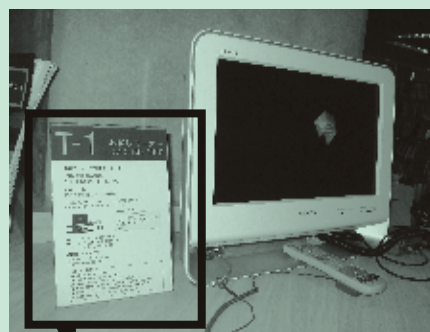
② 資料を視聴する

資料は集めたけど、これらを視聴するにはどうすればいいんだろう…

CDを聴きたいときは? DVDを観たいときは?どの機材を使うの?どうやって使うの?



機材にはそれぞれ説明プレートがついています。それを見れば、その機材で何が再生できるのかがわかりますよ。機材の使い方もそこに順を追って丁寧に説明されていますから大丈夫です!説明がわからないときやトラブル発生時はスタッフに声をかけてくださいね。



T-1 お試しコーナー DVD・CD/VHS

再生できるメディアが書いてある!



07 DVD/LD

個人視聴ブースには仕切にも再生できるメディアが書いてあります



なーんだ!簡単だね。これならめがねちゃんにも使えそう。まずはお試しコーナーで選んできたCDをざっと聴いてみようかな。

情報館にはこんなにたくさんの映像資料や録音資料があったんだね。『百聞は一見にしかず』って言うけど、確かに実際に見たり聴いたりできるとよくわかるよ。娯楽として利用するのもいいけど、レポートや研究に活用できたら心強いなあと思いました!みんなも是非、利用してみてね!

